

# ドローンによるリモートセンシングを利用した 小麦追肥重点型多肥栽培



ドローンによる  
リモートセンシングを活用して  
シロガネコムギで多収を！

## 播種前の準備

排水対策  
土壌改良資材の投入



## 播種（11月中旬から下旬）

播種量 播種量は控えめに（慣行の8割程度を目安）  
出芽数は**100~150本/m<sup>2</sup>**を目安  
基肥量 3Nkg/10a(慣行の半分程度)

十分に雑草対策を実施！  
雑草が残ってしまうと…  
⇒ 正確な生育診断が行えない  
追肥重点は雑草の生長も助長

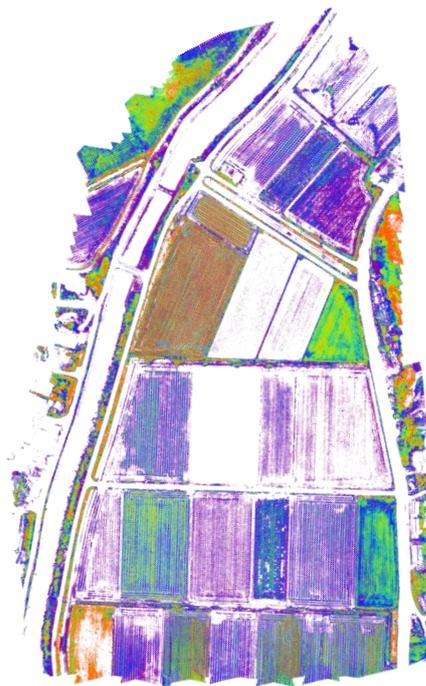


## ドローンによるリモートセンシング

麦の生育をみて1月中旬から下旬に実施



RGB画像



NDVI(植生指数)画像



# ※追肥時期は幼穂を見て判断します



## 追肥 1 回目

追肥時期：幼穂が分化し茎が1cm程度の時期  
※北部九州の平年の気象で1月下旬～2月上旬

追肥量：ドローンによるリモートセンシングで決定  
・慣行的な生育量以上（NDVIが0.25以上を目安）  
→8Nkg/10a  
・慣行の半分程度の生育（NDVIが0.25未満を目安）  
→12Nkg/10a



## 追肥 2 回目

追肥時期：伸長節間が2つ（写真の白矢印）確認される時期  
※平年の北部九州の気象で3月上旬頃

追肥量：5Nkg/10aを基準  
※地力の高い圃場や前作が大豆の場合は減肥



## 出穂～開花期

葉色は濃くなります

赤カビ病防除は慣行通り



追肥重点栽培

慣行栽培



# 収穫

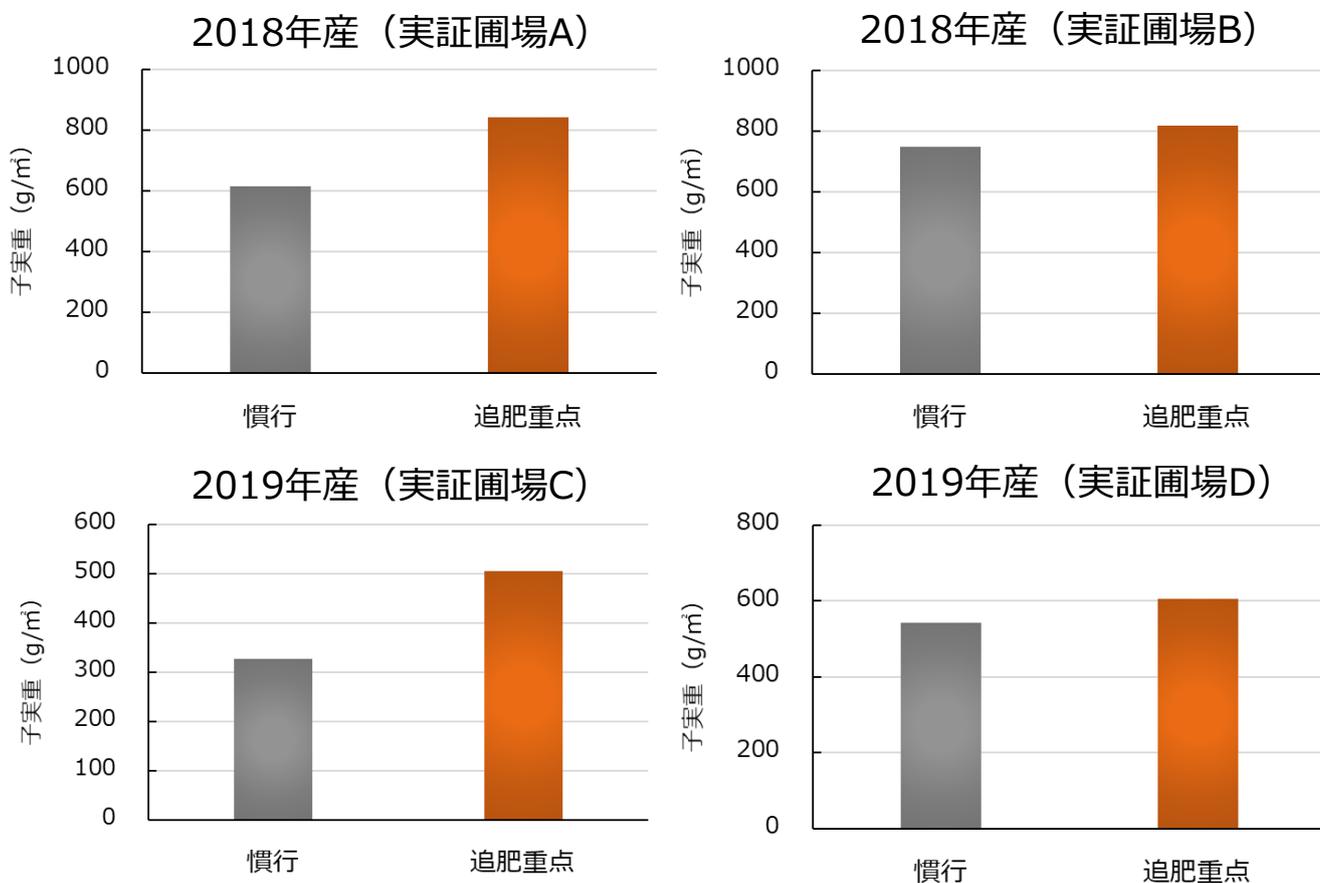
収穫適期に速やかに収穫

慣行栽培に比べて成熟が  
数日遅れる場合があります



収量は慣行栽培と比べて10~50%程度多収になります  
(※増収効果は気候や圃場条件により異なります)

## ●実証事例



※いずれの圃場も倒伏はありませんでした。

◆本パンフレットは「シロガネコムギ」を対象に行った試験結果です。他の品種については別途確認する必要があります。

## ●留意事項

- ・本パンフレットは農研機構生研支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）」で得られた成果の一部です。
- ・農研機構九州沖縄農業研究センターは、本パンフレットに掲載された情報をご利用になったことにより損害が生じてても一切の責任を負いません。
- ・本技術に関するお問い合わせは以下までお願いします。

## 問い合わせ先

農研機構 九州沖縄農業研究センター 地域戦略部 研究推進室

〒861-1192 熊本県合志市須屋2421 電話：096-242-7530 メール：q\_info@ml.affrc.go.jp